

地域独自予算、大潟工業団地などで質疑

3月予算議会始まる

3月議会が1日から始まりまし
た。初日は、中川市長による提案理
由の説明の後、5議員が登壇して総
括質疑を行いました。

私は日本共産党議員団を代表して
登壇し、行政組織条例の全部改正、
大潟工業団地の整備、地域独自の予
算、地域おこし協力隊制度を活用し
た農業研修、地域包括支援センタ
ーの機能強化などについて市長に詳し
い説明を求めました。

副市長4人制との関連

【橋爪】今回の行政組織の改編とこ
れまで市長が言ってきた副市長を4
人にすることの関連はあるのか。
【市長】今回お示しした四つのセク
ションに分け、その体制は変えない
状況の中で副市長を4人にするこ
とを追求していきたい。その時点では
基本的には組織改編は行わない。

大潟工業団地整備方式の変更

【橋爪】大潟工業団地については、

これまで、進出企業の要望に応じて
整備をする、いわゆるオーダーメイ
ド方式でやってきた。これは無駄の
出ない方式だと注目してきた。しか
し、今回の整備ではこれまでと違
うと聞いている。どう違うのか。無駄
は出ないのか。

【市長】オーダーメイド方式の大潟
工業団地においては、大区画の分譲
が可能ではあるものの、進出企業が
用地取得から造成工事まで一貫して
行わなければならないことから、数
年の事業期間を要し、企業が求める
スピード感に合わないし、企業の負
担が大きくなるため、企業進出に
つながらない状況だ。今回の整備にお
いては、例えば、市が用地取得し、
造成工事は具体的な進出企業が決定
してから行う手法などで、出来る限
り少ない初期投資で整備を行い、早
期の引き渡しを可能にしたい。

地域独自予算の統括的な管理

【橋爪】新年度予算では、地域独自
の予算として146事業、総額では
9413万円が計上された。地域独
自予算は、「新しい予算の仕組み」
だというのが、これから地域の将来を
どうするのか、なかなか見えない中
での予算措置だ。予算額も地域活動
支援事業の半分だ。新年度は過渡期
だと思いが、全体の取組をしっかりと
把握し、より良い予算へと発展させ
ていくためには統括的な管理が必要
となる。どこが中心となるのか。
【市長】地域独自予算については、
今後、総合政策部の中に入るので、



【アセビ】(再掲) ツ
ツジ科の常緑の低木。漢
字で「馬酔木」と書きま
す。実や葉は有毒だと言
われています。まだ花は
咲いていませんが、冬芽
が枝先で穂状について
いて、もう少しで開花を
迎えます。花期は3月~
5月。壺状の白い花を
咲かせます。花言葉は、
「犠牲」「献身」「あ
なたと二人で旅をしま
しょう」。写真は、市
役所に於て2月28日に
撮影。

ここは強気に政策を推進していく部
だと私は考えている。市長副市長を
含めて、地域政策監と新たに設置す
る地域政策課が中心になりながら進
めていくものと考えている。

地域包括支援センター機能強化

【橋爪】地域包括支援センターは介
護だけでなく、数年前から障がい
者、生活困窮者などの相談業務も加
わった。センターの機能を強化する
というが、その内容と予算措置につ
いて明らかにしてほしい。

【市長】センターに配置されている
保健師、社会福祉士、主任介護支援
専門員の3職種が兼務している、指
定介護予防支援事業、いわゆる要支
援者等のケアプランの作成業務が
年々増加している。

令和6年度からは、高齢者人口に
応じて、要支援者等のケアプラン作
成業務を主に行う職員を新たに増員
するなど、3職種が包括的支援事業
にしっかりと取り組める体制を整
え、高齢者の実態把握や一人一人の
状況に応じたきめ細やかな支援を可
能とするなど、センター機能を強化
していきたい。

具体的な内容は、今後、改めて、
事業者や介護保険運営協議会などか
ら意見をお聞きしながら、決定して
いく。関連する予算の計上は令和6
年度になる。

春を呼ぶコンサート

恒例となった「夢をかなえる会」
の新春コンサート、今回は小竹小勇
山社中とフルート奏者の仲野亨子さ
んが出演しました。会場の吉川多目
的集会場の2階は満席でした。

相馬御風の「春よこい」の他、
「千本桜」「津軽じょんがら節」な
どを演奏しました。三味線もフル
ートも唄もまさに春を呼ぶ音で、
素敵でした。



はしづめ法一の 活動レポート

No.2100 2023.3.5

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3628

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznyg_0808@yahoo.co.jp

URL http://www.hose1.jp/



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第七四七回 バレンタインデー

二月一四日と言えばバレンタインデーです。ここ数年は新型コロナウイルス感染症の影響もあって、渡されるチョコレートなども少なかつたのではないのでしょうか。

私の場合は、若かりし頃のように、バレンタインデーに何かをもらうことを期待するということがほとんどなくなりまして。もらう機会があれば有難く頂戴する、といった感じです。

今年も三人の女性からチョコレートをいただきました。

そのうちの二人は、安塚区在住の七〇代の女性です。バレンタインデーの数日前、昼食をとろうとラーメン屋さんに入ったところ、数人の女性の皆さんが奥の部屋で食事会をやっておられました。

私がカウンターに座ったところで、奥の部屋にいた一人の女性が、「橋爪さん、新刊お願いします」と声をかけてくださいました。知り合いのYさんです。新エッセイ集『初孫誕生』はたまたま車の中にありましたので、Yさんのところへ届けました。

そのときです。そばにいた二人の女性が、「はい、アイラブユー」などと言って小さなチョコレートをくださったのです。その「アイラブユー」がとても可愛らしく、思わず微笑んでしまいました。言うまでもなく偶然の出会いですが、その場でパッと判断し、手持ちのチョコを楽しく渡す。まさに義理チョコ渡しのプロだと思いました。

残る一人は長女です。どんなことがあっても、毎年、必ずプレゼントしてくれます。今年もバレンタインデーよりもかなり早い段階で手渡されました。

バレンタインデー当日、包みをあけると、今回は間違いなくチョコレートでした。以前、チョコレートだと思って冷蔵庫にしまったら財布だったこともあったのです。今回はそういうハプニングはありませんでした。

ただ、今回はチョコレートの入れ物がクレヨン入れのケースみたいなものになっていました。最近、私がイラストを描くとき、色を塗っていることから、長女はそこからへんを意識していたのかも知れません。

ケースの中のチョコレートは一個の長さが五センチほどでした。チョコは一つひとつ、緑色、黄色、茶色、ブルーなどの紙に包まれていました。そこには、ネコのしっぽの絵が可愛く描かれていて、全体はクレヨンがずらりと並んでいるように見えました。味ですか、もちろん上々でした。

そして、この日はいまままでにない「プレゼント」がありました。亡き母の言葉です。私は数年前から、母との会話のやりとりをスマホ内のメモ帳に記録してきました。そのメモは膨大なものになっていきます。夜遅くなると、たまたまこのメモを開いたときに、二月一四日という日付の入ったメモが目に入りました。前後の記録の内容から判断すると、たぶん一年前か、二年前に書いたものだと思います。

メモを原文のまま紹介しますと、次の通りです。

二月一四日、一三時四一分。少し前に時計を見ていた母が声をかけてきた。

「とちや、まんま、食わんでいいが」

「食ってきた」

「食ってきたが。ほっか」

「おら、きょう、注射してもらった」

「いてくねかったかね」

「いてこて、注射だもん。針、刺すとき、いて、そしたら、ちょっと我慢してね、そいになった」

自分で記録した言葉のやりとりではありませんが、突然、私の前に出てきたことよって、私へのプレゼントのように思えました。私の勝手な思い込みかも知れませんが、どうあれ、いまの私にとっては最高のプレゼントでした。ばちや、あらがね。

「灯の回廊」、今年も楽しく、賑やかに

先週の土曜日、私は馬場ひでゆき弁護士とともに「灯の回廊」を見て回りました。

馬場弁護士は高士ルミ木を見た後、私と合流し、浦川原、大島を回り、市民の皆さんと交流しました。皆さんからは、「頑張ってください」と激励されました。天気が良かったこともあって、どこも賑わっていましたね。

イラストの上はほくほく大島駅広場です。灯りの数が多く、圧倒されました。イラストの下は大島区菖蒲での腹ごしらえです。ラーメンもおでんも、とてもいい味でした。

来年は名立、高士、牧、安塚へも行きたいです。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	2月22日(水)	3月1日(水)
上越南消防署	0.057	0.053
上越北消防署	0.037	0.043
新井消防署	0.050	0.057
頸北消防署	0.050	0.050
頸南消防署	0.060	0.067
東頸消防署	0.040	0.040
名立分遣所	0.057	0.057
高士分遣所	0.053	0.053